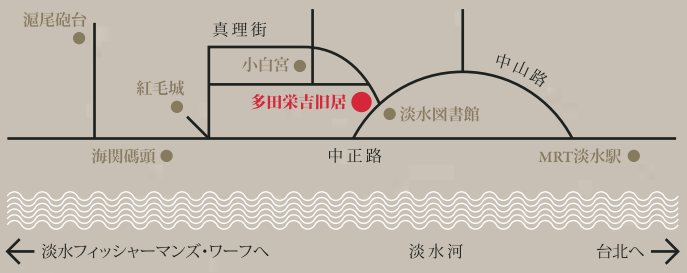
故居

多田栄吉旧居



記念スタンプ

交通アクセス

淡水区馬偕街19号

台北MRT「淡水」駅で紅26番、836番、857番のバスに乗り換え、「淡水図書館」で降りてください。

オープン時間

月～金曜日 9:30 - 17:00
土・日曜日 9:30 - 18:00

休館時間

毎月第一月曜日(国民の祝日や振替休日と重なる場合は一日順延)、旧暦大晦日、旧暦元旦および博物館が別に公告する時間

廣告

新北市立淡水古蹟博物館
Tamsui Historical Museum, New Taipei City

富宝

TADA EIKICHI

多田栄吉は1864年生まれで、本籍地は日本の兵庫県神戸市にありました。多田家は神戸で有名な地主であり、福祉事業に熱心な家族でした。多田栄吉は、訪台後も家族の伝統を引き継ぎ、情熱を持って公益事業を積極的に推進した台湾在留の数少ない日本人の中の一人でした。

障子戸の引き手様式

多田栄吉は1897年の訪台後、様々な商売を次々と経営しました。1919年に「淡水興業組合」を設立した後、次第に淡水地区においての事業を拡大していきました。1930年3月に第4代淡水街長(現在の淡水区区長に相当)に任命され、淡水地区の工業と商業の発展に力を尽くし、1933年9月に淡水街長を退職しました。

日本統治時代初期に台湾に在留していた日本人の多くは、日本から何も持たずにやってきて起業していました。しかし多田は当時では非常に珍しく、日本での経営により得た利益と資本で台湾で事業を始めました。1940年には古希を迎えた多田ですが、なおも熱心に淡水の発展のために奔走し続けていました。1945年の第二次大戦後、多田一家3人は台湾を離れ、日本の神戸へと帰国しました。

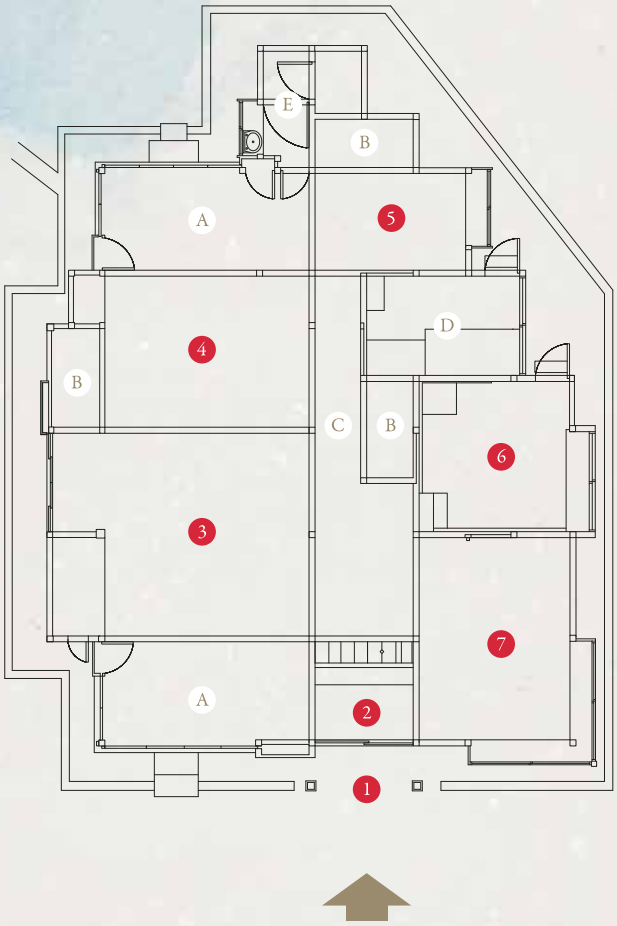
多田栄吉旧居は1934年(昭和9年)に落成し、ベニヒノキを使用した建築です。外壁は下見板張りで、黒い屋根瓦と室内にある竿縁天井が今もなお残された、淡水でも数少ない完璧な日本式の官舎です。2005年4月に市定古跡に指定され、修繕を経て2016年7月から一般の方々に公開されています。

旧居歴史

多田栄吉の旧居は淡水埔頂区に位置しています。ここは清朝時代より騒動が絶えず、また地権がはっきりとしていなかったため、偽の賃貸などが次々と発生していました。日本統治時代後、総督府の所有地となり、1937年に総督府が地目を山林から建設用地へと変更しました。多田はこれを機に、この土地を購入し、宿舎として使っていました。このことからもその影響力の強さを知ることができます。多田一家は1934年からここに移り住み、1945年の第二次大戦後日本に戻るまで、12年間も住んでいました。

旧居の美

多田栄吉の旧居は伝統的な日本家屋で、西洋式のいわゆる「洋館」のスペースは加わっていません。入口が中央に位置し、両側に窓が設けられています。家屋の後ろ部分は何段にもなり「L」字型に折られて次第に縮みます。このようなデザインは、それぞれの部屋すべてが屋外に向けることができ、比較的に風通しと日当たりがよく、木造住宅の耐用年数を延長させることができます。



旧居のご案内

1. 車寄
建築の入り口に設けた屋根付きの部分を指します。居住者がここから車の乗り降りをしたり、住宅に出入りをするのに便利です。

2. 玄関
住宅の主な出入り口で、人々はここから出入りし、靴を脱いだ後に室内に入ります。

3. 座敷
通常、日本家屋の最も重要な部屋です。来賓を接待する客間として用います。

4. 次の間
寝室として使用され、日本式の住宅の中で座敷について重要な空間です。

5. 寝所
すなわち寝室です。

6. 台所
すなわち厨房で、またの名は「勝手」、または「炊事場」となります。

7. 茶の間
食事をする部屋で、通常は台所の隣に位置しています。

A. 縁側
室内から庭に向かう間にある空間です。

B. 押入
壁に備え付けられた収納です。日本家屋特有の貯蔵スペースです。

C. 廊下
通路または通り道であり、室内の部屋をつないでいます。

D. 風呂
すなわち浴室です。

E. 便所と洗面所
すなわちトイレと洗面台です。